

風波

昭和期に圧倒的な人気を博し、大衆演劇の礎となった劇団「新国劇」。その精神を受け継ぐ若獅子会の結成35周年記念公演を観劇する機会に恵まれた◆演目は「赤城の山も今夜の限り…」の名ぜりふで知られる『国定忠治』だ。

新国劇の創立者である澤田正二郎の演出を踏襲した迫力ある剣劇と人情の機微を伝える熱演には思わず身を乗り出した◆その立ち回り、殺陣の見事さに長年にわたる修練を思うと同時に脳裏に浮かんだのが、型があつての型破り、型がなければ単なる形無しという、歌舞伎役者の18代目中村勘三郎の言葉だ◆いかに優れた技量や技術であっても、それを受け継ぐものがなければ、やはり形無しとなる。時代変化の中で後世へと継承・発展させていくことの難しさと大切さを改めて思い起こさせる舞台だった。

